

アグリ ワーク ポイント

秋整枝によって茶樹の摘採面に出現した芽や成葉は休むことなく活動が続けられ、貯蔵養分として樹体に蓄積されます。その養分の蓄積によって茶樹は耐寒性を増し、越冬に備えていきます。

秋整枝をしたことで

気温の低下にともない茶樹の耐寒性は徐々に強まり、厳寒期の1〜2月頃はマイナス10〜12℃くらいまで耐えますが、耐寒性を越えた低温や寒風にあたると寒害を受けます。今年の冬は、ラニーニャ現象の影響で、平均気温が平年より低いと予想されているので、①標高が高い茶園②冬の季節風を強く受ける茶園③冷たい空気が停滞する窪地や低地などは注意が必要です。

防寒対策

寒害防止対策として、敷き草が有効です。敷き草は、土壌の乾燥を防ぎ地温を保ちますが、**水はけの悪い所で敷き草を施用すると、逆に地温を下げ、寒害を受けやすくなる場合がある**ので注意しましょう。また、秋肥が遅いと裂傷型凍害の発生率が高まるとの研究結果もあるため、秋肥の窒素量と施肥時期を厳守してください。【表1参照】

病害虫防除

カンザワハダニ

カンザワハダニは平均気温9〜10℃になると休眠期に入り、鮮やかな朱色になります。増殖期は暗赤色で、平均気温11〜12℃になる11月上旬が防除適期です。発生には、ほ場格差があるので、各地域の防除情報を参考にしてください。

チャトゲコナジラミ

成虫の寿命は3日程度と短く、少数では茶園に大した被害はありませんが、成虫が多数発生すると、排泄物によって葉に「スス病」の被害をもたらします。茶園全体に「スス病」が発生すると寒冷遮をかけたような状態が続き、光合成ができず、来年の一番茶に大きな減収を招きます。発生していても予防のために、カンザワハダニの防除と兼ねて「マシン油乳剤」を散布しましょう。

【表1】

分類	被害の型	発生の部位と症状の特徴	発生の時期
赤枯れ	凍害	莖葉、芽が凍害により、赤褐色に変色する	12〜2月
青枯れ	寒早害	葉、枝。水分不足で枯死した葉が青白く見える	12〜2月
幹割れ	裂傷型凍害	地際部の幹の形成層が凍結し、表皮がはがれる	11〜12月、3月
胴枯れ	凍害	厳冬期の低温で幹や枝が凍結枯死する	厳冬期

(茶大百科Ⅱ 技術資料参照)



茶指導販売課 福手 裕三